

テーマ	部会での主なご意見	素案への反映状況等
第1章 創造戦略 4-①「食の魅力を生かした産業の高度化」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「高付加価値化」というものが、一般の方に分かりにくいと思う。（川崎委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;主な取組&gt;「機能性などに着目した付加価値の向上促進」において、「高付加価値化」を「付加価値の向上促進」に修正するとともに、脚注に「付加価値」の説明を明記（P33）</li> </ul>
第1章 創造戦略 4-②「魅力あるまちづくりと観光振興の一体的推進」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 教育の場面で、「札幌学」のような教科を設け、子どもからビジネスマンまで習得していく中で、観光振興を実際に推進していくことがあっても良い。（池田委員）</li> <li>● 教育による観光への効果は大きい。子どものころから札幌の良いところ教えるのが一番大事である。それが、観光都市として、札幌をいろいろな人に教える、伝えるこの原点である。（内田部会長）</li> <li>● 観光を産業として高度化するため、観光に貢献できる人材を輩出できるような体制づくりを複数の大学と行政が協力し合って推進していくという表現があると良い。（為定委員）</li> <li>● 「大規模国際会議の誘致」とあるが、むしろ「多様な国際会議」として、規模に関わらず、国際会議であればどれでも引き受けるという姿勢でやって欲しい。（内田部会長）</li> <li>● 市内中心部だけでも無料のWifiを飛ばすと、コールセンター機能やホームページでの情報発信、多言語化などをしなくても外国人旅行者が勝手に情報を取り、言語を置き換えるので、今の時代は、それをやるだけで効果があると思う。（中嶋委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;主な取組&gt;「創造性を育む教育プログラムの充実」において、「札幌の自然や歴史等を学び」を明記（P52）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「高度専門職業人の創出とキャリアアップ支援」において「市内の大学などによる高度専門職業人の創出」を明記（P53） 北大大学院や札幌国際大学などで観光学の研究がなされており、今後も連携のあり方について検討していくことを想定。</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「MICEやインバウンドの誘致強化と推進体制の充実」において、「多様な国際会議の誘致」と明記（P37）</li> <li>● インターネット環境だけではない多様な受入環境も必要であり、当面は多言語対応の取組も並行して実施することとし、「多言語対応の促進」を明記。（P37）</li> </ul>
第1章 創造戦略 4-④「超高齢社会に対応した健康・福祉産業の創造」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 医薬やバイオを組み合わせる機能性食品を作っていくのは新しいスキームであるが、表現的にもっと強調した方が良い。（為定委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;主な取組&gt;「機能性などに着目した付加価値の向上促進」において、「道産品の高付加価値化を図るため、医薬や機能性食品の研究開発や、鮮度保持技術の実用化などを支援」と明記（P33）</li> </ul>
第1章 創造戦略 5-①「世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「国際戦略有識者会議の設置」とあるが、札幌らしさを訴えるうえで、トップの人達よりも、むしろ実務者や女性を織り交ぜながら、実効力のある組織づくりやネーミングにより、この構想を価値あるものにして欲しい。（池田委員）</li> <li>● 外国人の方が、今後、札幌で担う役割は重要である。政令指定都市の中で一番登録者数が少ないというが、これはある意味でチャンスであると思う。つまり現在少ないということは、逆に言うと、戦略的に増やしていける余地があるということである。どういう分野に、どうやって就業していただくかを考えるべきである。（為定委員）</li> <li>● 施策の方向性が10個に分かれ、縦割りになっているが、むしろこれを横串で刺せるような、例えば、保育所を充実させる中で、バイリンガルを採用し、外国語を交えた初等教育をすることなどの戦略づくりを考えていくべきである。（為定委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ご指摘の点を踏まえて、具体的な構成や運営体制を検討し、事業化を図る予定</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「グローバル人材の育成・就業支援」（P44）や「留学生や高度人材の積極的な誘致・活躍」（P53）において、「留学生の誘致促進、就業支援」を明記</li> <li>● 施策の方向性に向かって、各部局が横串で事業展開を図ることが重要であり、横断的な取組を明記。例として、                         <ul style="list-style-type: none"> <li>・&lt;施策の方向性&gt;「世界の活力を取り込む国際戦略の積極展開」において、販路拡大、グローバル人材育成・確保、多文化共生、MICE誘致など（P43、44）</li> <li>・&lt;施策の方向性&gt;「将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用」において、札幌の自然や歴史、文化芸術、食などの様々な分野の教育プログラム、アーティストインレジデンスや二地域居住、就業支援など（P52～54）</li> </ul>                         ※外国語を交えた初等教育は、ALT（外国語指導助手）を配置し、特に近年は小学校に重点をおいて増員を進めているところ                     </li> </ul>

テーマ	部会での主なご意見	素案への反映状況等
<p>第1章 創造戦略 5-②「創造性を生かしたイノベーションの誘発」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「地場企業」を「食・環境・福祉分野など重点的に掲げているような産業・企業との連携」と記載すると分かりやすい。（早川委員）</li> <li>● 「映像発信のハブ機関」という文言は分かりにくいので、注釈を付けた方が良い。（早川委員）</li> <li>● 「クリエイティブ産業の創発と人材育成」を「創造的なものづくりにチャレンジするベンチャー企業や起業家の育成」に移し、2つの柱立てを人材育成や新しい企業の育成と、そのうえで交流促進があるとする方が分かりやすいのではないかと。（早川委員）</li> <li>● 「クリエイティブ産業の創発と人材育成」をメディアアーツ・ラボだけが担うように見えるので、文言的に配慮をした方が良い。（早川委員）</li> <li>● あえて「文化芸術の産業化」というキーワードをどこかに入れ、文化芸術がより積極的に経済に関わっていくというイメージを出すと良い。（早川委員）</li> <li>● 夏のPMFから始まって、アートステージや国際短編映画祭などがある。こうした既存の事業をもう少し上手く活用し、新しいものだけでなく、それを既存の事業とのコラボレーションさせることにより、具体性や実現性が高くなると思う。（早川委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;施策の方向性&gt;において、「食・環境・健康福祉分野などの多様な地場企業・産業との交流」に変更（P45）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「札幌コンテンツ特区の活用」において、「映像の活用による商品の販路拡大やMICE誘致」に表現変更。（P46）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「創造的なものづくりにチャレンジする起業家の育成」において「クリエイティブ産業の創発と人材育成」を位置付け（P46）</li> <li>● 「ICC や札幌市立大学を始めとした高等教育機関など様々な組織、人材による創造性を生かした取組を通じて、新たな価値を生み出し、国内外の需要を取り込むことができるクリエイティブ産業の創発や人材育成」に表現を変更（P46）</li> <li>● 「文化芸術とビジネスの交流促進」を明記（P47）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「文化芸術とビジネスの交流促進」において、「（仮称）アートセンターや札幌国際芸術祭を始めとした多様なイベント等を活用しながら、芸術家と企業等との交流や連携を促進するなど、産業化を目指した取組を推進」と明記（P47）</li> </ul>
<p>第1章 創造戦略 5-③「広域連携ネットワークの強化と投資環境の充実」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東雁来地域を、例えば「ものづくり地域」など、道外から見ても分かりやすい、性格を訴えるようなネーミングにするなど、実効性を高めて欲しい。（池田委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 実効性を高めるネーミング等については、今後、事業の具体化を図る中で検討</li> </ul>
<p>第1章 創造戦略 5-④「シティプロモート戦略の積極展開」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「札幌国際芸術祭の開催」とあるが、これが音楽祭なのか、美術祭なのかを具体的に考えるものにしていくと、内容が濃くなっていくと思う。（池田委員）</li> <li>● 「シティプロモートの推進」とあるが、もう少し具体的な取組がないと、発信する人を更に増やす具体的な施策の方向性が見えない。（早川委員）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業実施に際しての具体的な広報戦略の中で配慮</li> <li>● &lt;主な取組&gt;として、「“SAPPORO（サッポロスマイル）笑顔になれる街”の普及を推進」を明記し、具体的な取組イメージを記載（P50）</li> </ul>
<p>第1章 創造戦略 6-①「将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用」</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 少しずつ若い子どもたちに外国人と接する機会を作ること検討して欲しい。（内田部会長）</li> <li>● 「食の魅力を生かした産業の高度化」と子どもの接点を図ると良いと思う。本来は食の産業化をマネジメント・プロデュースする教育があるべきだが、せめて次世代を担う子どもの食への意識やベーシックな知識を持たせる何らかのプログラムが必要である。（川崎委員）</li> <li>● 札幌市立大学と記載されているが、他にも国公立。私立大学があるので、もう少し良い表現があるのではないかと。初めに包括的な記載にしてから、個々の大学名を記載する方が良い。（内田部会長）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● &lt;主な取組&gt;「国際感覚豊かな人材の育成」において、「国際理解教育の推進」を明記。具体的な取組として、ALT（外国語指導助手）や外国からの訪問者などとの交流機会の積極的な導入を想定。（P53）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「創造性を育む教育プログラムの充実」において、「食育」にも取り組んでいくことを明記（P52）</li> <li>● &lt;主な取組&gt;「高度専門職業人の創出とキャリアアップ支援」において、「市内の大学などによる高度専門職業人の創出」に修正（P53）</li> </ul>